

## 令和4年度茨城県教育研修センター第1回外部評価委員会記録

日時	令和4年7月25日（月曜日） 午後1時30分から午後3時まで
場所	茨城県教育研修センター101研修室
出席者	<p>○外部評価委員  野崎 英明 委員  植田 みどり 委員  沼田 安広 委員  鈴木 宏治 委員  森 久美子 委員  大崎 弘美 委員  奥岡 智博 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター  所長 猪瀬 宝裕  次長 菅野 弘司  次長兼教職教育課長 木村 真理  企画管理課長 木村 正之  教科教育課長 海老澤 恭弘  情報教育課長 工藤 博幸  教育相談課長 関口 一治  特別支援教育課長 本城 知子  企画管理課指導主事 身内 卓也  企画管理課指導主事 桧山 龍樹</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 所長あいさつ</li> <li>3 委員委嘱</li> <li>4 出席者紹介</li> <li>5 委員長・副委員長の選任</li> <li>6 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育研修センターの概要</li> <li>(2) 報告 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 令和3年度事業実績</li> <li>イ 令和4年度事業計画</li> <li>ウ 令和3年度年度外部評価委員会の評価結果</li> <li>エ 事業評価に関する様式等</li> </ol> </li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>7 施設参観</li> <li>8 閉会</li> </ol>

1 開会

2 所長あいさつ

3 委員委嘱

委嘱状を交付し、委員を委嘱した。

#### 4 出席者の紹介

外部評価委員会委員及び茨城県教育研修センター事務局職員を紹介した。

#### 5 委員長・副委員長

委員長に野崎英明委員を、副委員長に沼田安広委員を選任し、承認された。

#### 6 議事

##### (1) 教育研修センターの概要 (資料1)

##### (2) 報告

ア 令和3年度事業実績 (資料2)

イ 令和4年度事業計画 (資料3)

ウ 令和3年度外部評価委員会の評価結果 (資料4)

エ 事業評価に関する様式等 (資料5)

- ・事務局から説明
- ・資料に関する質疑

事務局から資料2「令和3年度事業実績」、資料3「令和4年度事業計画」について説明後、次のような質疑応答があった。(○は委員、●は事務局を表す)

- 初任者と新規採用の違いは、どういうところか。
- 初任者が小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教諭に該当する。新規採用は、養護教諭、栄養教諭、実習助手等が該当する。教諭は3年間かけて研修するが、それ以外は1年間の研修となる。

事務局から資料4「令和3年度外部評価委員会の評価結果」について説明後、次のような質疑応答があった。

- 評価結果の「障害者に対して十分配慮されているか」の項目で、B評価が多かったのはなぜか。
- 各階の障害者用トイレの整備やスロープなどのバリアフリーについては、よい評価を得ていたが、さらに施設全体的に障害者向けの環境整備がされるとよいという意見があったため。
- 特別支援教育担当ではない教員が、特別な支援を必要とする子供たちへの正しい接し方の理解を、さらに深めていく必要があると思う。研修センターとしては、どんなバックアップを考えているのか。また、そういう事業があるならば教えてほしい。
- 特別支援教育課で教育相談を受けている。また、中堅教諭〔前期〕(6年目の教諭)の通常学級の教諭には、アンケートを行い、特別支援教育関係で困っていることについて調査している。対応としては、来年度に通常の学級を担当する教員を対象に、特別支援教育の視点をもった研修を計画しているところである。
- 外部評価委員会が出た意見は、反映されるのか。それとも、評価までなのか。
- ご意見のうち、反映できるものは、次年度の事業に生かしている。
- 教員間のICTスキルに差が開いてしまっていることで、管理職にとって苦しくなっている。20代・30代の教員は、研修センターのICTの研修が非常に身になっている。50代の教員は、悉皆研修がない、希望研修も受けない、若手に方法も聞けないということで、授業改善に繋がらず、ICTを活用した授業に格差が出てしまう。ベテラン教員向けのICT研修がほしい。
- 初心者対応の授業づくり向上のためのICT活用研修講座を以前から設けている。今年度は、その研修講座名に「はじめての」の文言を付けたり、内容をさらに基礎的なものにしたりして、初心者の教員を対象に設定した。こちらをベテラン教員にも対応した研修にしていきたいと考えている。
- ICTに関する研修支援の活用を、校長会で伝えているところである。スキルを身に付けるためにも研修支援の事業を活用していただけるとありがたい。

- 定年が延長になると、最終的には65歳まで教諭であり続ける。現在ベテラン教員研修は、45歳を対象として研修を行っているため、受講後さらに20年間、悉皆研修を受講する機会のないまま勤務を続けることになる。文部科学省では、育成指標の見直しを進めているので、本県でも育成指標の改訂を計画しているところである。その状況の中で、研修センターの研修も65歳定年を見据えて、研修機会がないと言われている年代の教員を対象に、研修を行う必要性を感じている。その研修でも、やはりICTの研修は必要になると考えられる。研修講座を身近に感じ、受講できるようにしていかなければならないと考えている。

**事務局から資料5「事業評価に関する様式等」について説明後、質疑応答はなし。**

### **その他の質問**

- 今後の方向性を聞きたい。1点目が希望研修。定員割れの講座が多いが、その分析や今後の方向性はどうか。
  - 2点目は、研究発表会について。学校現場としては、8月上旬開催は、厳しい。
  - 3点目、宿泊研修がなくなっている今、宿泊研修棟は、今後どうしていくのか。
  - 最後に、障害のある教員の配慮について。今後どのように予算付けをしていくのか聞きたい。
- 希望研修は、そのときのニーズを捉え行っている。次年度の講座構築のとき、今求められているものを考慮して、構築していきたい。また、受講者数は、受講決定後、何らかの理由で辞退または欠席となる方もいるため、定員に満たない講座もある。
- 研究発表会の時期については、授業のある時期、面談の時期、閉庁日と重ならないようにと夏季休業日とした。また、ご意見を踏まえて検討していきたい。
- 教員の交流の面で、宿泊研修には意義があると考えているが、再開に向けては課題もある。コロナ収束に向け、宿泊研修の有用性などについて、今年度中に調査・検討を行う予定である。
- 研修時における障害のある教員対応の手話通訳については、1人分の予算を確保している。

### (3) その他

資料6の広報資料について

事務局から今後のスケジュールについて説明

### 7 施設参観

### 8 閉会

## 令和4年度茨城県教育研修センター第2回外部評価委員会記録

日時	令和4年11月15日（火曜日） 午後1時30分から午後3時30分まで
場所	茨城県教育研修センター205研修室
出席者	<p>○外部評価委員  野崎 英明 委員  植田 みどり 委員  荒瀬 克己 委員  沼田 安広 委員  森 久美子 委員  大崎 弘美 委員  奥岡 智博 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター  所長 猪瀬 宝裕  次長 菅野 弘司  次長兼教職教育課長 木村 真理  企画管理課長 木村 正之  教科教育課長 海老澤 恭弘  情報教育課長 工藤 博幸  教育相談課長 関口 一治  特別支援教育課長 本城 知子  企画管理課指導主事 身内 卓也  企画管理課指導主事 桧山 龍樹</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 所長あいさつ</li> <li>3 令和4年度茨城県教育研修センターの主な事業の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修講座の実施状況</li> <li>(2) 研究発表会</li> <li>(3) NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修</li> <li>(4) オンライン・エドカフェ</li> <li>(5) いばらき輝く教師塾</li> <li>(6) 公開講義</li> </ol> </li> <li>4 研修講座参観 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新規採用教員〔初任者〕研修講座（中学校）〔生徒指導、教育相談〕</li> <li>(2) 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校）〔教科別研修：数学、英語〕</li> <li>(3) 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座（小・中・高・特）〔選択研修：情報教育〕</li> <li>(4) 知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座〔数学、英語〕</li> <li>(5) 長期研修</li> </ol> </li> <li>5 意見交換</li> <li>6 閉会</li> </ol>

- 1 開会
- 2 所長あいさつ
- 3 令和4年度茨城県教育研修センターの主な事業の実施状況（木村次長より説明）
  - (1) 研修講座の実施状況
  - (2) 研究発表会
  - (3) NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修
  - (4) オンライン・エドカフェ
  - (5) いばらき輝く教師塾
  - (6) 公開講義
- 4 研修講座参観（研修講座担当課の課長より説明）
  - (1) 新規採用教員〔初任者〕研修講座（中学校）第11日 生徒指導、教育相談
  - (2) 中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座（中学校）第5日 教科別研修：数学、英語
  - (3) 中堅教諭等〔後期〕資質向上研修講座（小・中・高・特）第5日 選択研修：情報教育
  - (4) 知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座 第3日 数学、英語
  - (5) 長期研修
- 5 意見交換（○は委員、●は事務局を表す）  
**研修講座参観後、次のような意見交換があった。**

**【質疑応答等】**

- 今年度の重点項目である研修講座のイントロダクションとリフレクションについて聞きたい。センター全体で、どのように共通理解を図っているのか。
- センターでの共通理解を図ることを目的として、年度当初に所員研修を実施した。まず各課で内容を検討し、次に、各課を代表して教育相談課が実際にイントロダクション・リフレクションを実践する様子を他の課員が参観した。それを基に、さらに各課で検討を進めた。
- 共通理解として、受講者が一日を通して何を学ぶのか、講座の目的を自分事として捉えることができるように、また、「与えられる研修」ではなく「能動的に獲得する研修」とすることができるように、その仕掛けとしてイントロダクションとリフレクションに力を入れるということを確認した。さらに、イントロダクションにおいては、講座担当者の思いを伝えることも重要であることを確認した。
- センターの学習指導案の作成の仕方、単元の指導計画の時間が10時間以上ある学習指導案を作成すると、かなりのページ数になってしまう。また、展開部分の指導の留意点を詳しく作成できない。学習指導案を作成する上での、センターの考えを聞きたい。
- センターWebページの学習指導案の欄で、「ここに示している様式は一例であり」と記載している。センターの学習指導案を参考とし、各市町村や各学校の実態に適した学習指導案を作成することは差し支えない。
- 本県の学校教育指導方針の中に、SDG sのことが取り上げられている。しかし、教育現場の教員は、SDG sを核として、どのようにして教科等横断的に指導すればよいか分からない状況である。センターでは、SDG sの内容を研修講座の中で、どのように取り扱っているのか知りたい。
- 教科等横断的なSDG sの指導としては、SDG sの内容を取り扱った研修講座において、最初に講義で理解をしていただいている。次に、受講者のグループに指導主事が入った研究協議を行い、SDG sの学習を進めていくにあたっての悩み等を聞き助言をする形をとっている。

○イントロダクションの時間は10分とあったが、リフレクションにはどのくらいの時間をかけているのか。

●リフレクションには、10～15分ぐらいの時間をかけている。

○初任者研修での3人グループでの演習がとてもよかった。ラウンドテーブルという研修形式で、1人が実践の話をし、他の人がそれを聞き、質問や同意をしたり、気付きを生むように発言をしたりしてよかった。この研修形式で行うのなら、先輩の先生と交流をするラウンドテーブルもあるといい。そのような年代をまたがっての研修の機会は設けられているのか。

●教育相談課の担当する希望研修で、不登校対応研修講座や教育相談がある。その研修では、いろいろな年代の教員が集まるので、そこで年代をまたがっての研修の機会を得ることができる。また、初任者研修では、実践発表をしていただいた協力者の先輩教員にグループ協議の際に入ってもらい、そのような研修の機会を設けるときがある。

○公開講義の実施方法について知りたい。

●集合研修での講義を同時にオンラインで配信している。

○内地留学生は、基本的に長期研修室のみで研修をしているのか。

●長期研修室は、ベースとしての居場所であり、他の研修室で各担当指導主事に指導を受けたり、図書情報室で調べものをしたりしている。また、センターで開講している研修講座の聴講もできる。

○内地留学生の研究は、基本的には文献等で調べてまとめる感じか。

●センターでは研究内容の検討会等を設け、内地留学生同士でお互いの研究内容を発表して、よりよい研究方法を検討したり、その検討会に指導主事も入り助言をもらったりしている。また、現地研修という形で、内地留学生の所属校に一度戻って、考えた研究方法を授業で実践し、検証する機会も設けている。そして、それらを通して実践報告書として研究をまとめている。

○今年度の教師塾Ⅱ期の1日が、学園祭と重なってしまったので、次年度は時期をずらすことはできないか。

●来年度の時期について、学園祭と重ならないよう設定する。

○オンライン研修を行うに当たって、研修担当の指導主事のICTスキルをどう高めたのか。また、外部の講師にオンライン研修を依頼する際、気をつけていることはあるか。

●情報教育課を中心に所員研修を行い、オンライン研修における指導方法を共有した。また、実際にオンライン研修を繰り返すことで、指導方法の改善をしていきスキルを高めてきた。

●外部講師にオンライン研修を依頼する際には、一方通行の講義だけでなく双方向性を重視し、Zoomのブレイクアウトルーム（小グループでの話し合い）で、受講者同士が交流する演習等の工夫を取り入れていただくようお願いをしている。

○研究発表会を12月から8月に移したとのことであったが、8月に行うことで年度途中での振り返りができ、年度の後半にその振り返りを活かすことができるのでよいと思う。年度末の発表では、人事異動等があり、次年度になかなか活かすことができないので、8月に移したことは、とてもよい。

○本当の学びをどう作っていくかということで、初任者研修で行っていたラウンドテーブルでの研修方法は、とても効果的である。

○若い世代の教員のストレスの原因で、2世代ぐらい上の世代の教員との意識のずれがある。それを解消するためにも、年代別横断の研修があるといいのではないかと思う。お互いの年代で大きな学びがあると思う。

## 6 閉会

## 令和4年度茨城県教育研修センター第3回外部評価委員会記録

日時	令和5年2月13日（月曜日） 午後1時30分から午後3時まで
方法	Web会議システムによるオンライン会議
出席者	<p>[外部評価委員]</p> <p>野崎 英明 委員          沼田 安広 委員          鈴木 宏治 委員          大崎 弘美 委員          奥岡 智博 委員</p> <p>[茨城県教育研修センター]</p> <p>所長 猪瀬 宝裕          次長 菅野 弘司          次長兼教職教育課長 木村 真理          企画管理課長 木村 正之          教科教育課長 海老澤 恭弘          情報教育課長 工藤 博幸          教育相談課長 関口 一治          特別支援教育課長 本城 知子          企画管理課指導主事 身内 卓也          企画管理課指導主事 桧山 龍樹</p>
次第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和4年度各事業の実績及び評価</p> <p>(2) 外部評価委員による事業評価</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事

(1) 令和4年度各事業の実績及び評価

事務局から、資料1「令和4年度事業等の実施状況」、資料2「令和4年度各事業における事業評価」、資料3「令和4年度事業に関する100校抽出アンケート結果」について説明をした。

(2) 外部評価委員による事業評価（○は委員、●は事務局を表す）

【1 研修センターの事業について】

- 研修講座を含め事業は、量・質共に充実している。
- 「大学との連携事業」における研修センターの貢献は、高く評価できる。
- コロナ禍の中、「学びを止めない」という方針のもと、事業を中止することなく、各事業とも充実した運営がされていた。
- 100校抽出アンケートの結果から、どの事業でも大変よく取り組んでいることが分かる。今後もさらなる先進性と合理性をもって取り組んでほしい。
- 100校抽出アンケートの結果で、オンライン研修をする際に場所の確保が難しいとの意見が目立った。各学校の環境の問題であるとは思いますが、研修センターとして何か考えはあるか。
- 学校によっては使用できる場所の確保が難しい場合もあるため、オンライン研修の受講場所は、「所属校等、研修に専念できる場所」と実施要項等に明記し、学校長の判断で自宅での受講も認めていただくよう案内している。また、市町村教育長協議会や校長会等で

- も協力を依頼している。しかし、校種や市町村、学校によって対応は異なるようである。
- 「いばらき輝く教師塾事業」は、令和3年度に比べて参加者数が減少している。この事業についても、所員の自己評価と分析、それに基づく改善が必要ではないか。
  - 令和2年度「いばらき輝く教師塾Ⅰ期」は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。そのため、令和2年度に受講を希望していた方が、令和3年度のⅠ期に申し込んだことにより、370名という参加者数となった。令和4年度の参加者数は200名に落ち着いているものの、募集定員の120名を上回っている。
  - 令和3年度「いばらき輝く教師塾Ⅱ期」は、教員選考試験の「いばらき輝く教師塾」修了生特別選考が設けられたことにより、前年度よりも参加者数が大幅に増加し、300名を超えた。令和4年度の参加者数も300名を超え、120名の募集人数を大きく上回っている。
  - 今後も、受講者のニーズに応じた内容の充実に努めるとともに、県内や近県の大学への働きかけを続けていきたい。
  - 令和4年度の改善として、令和3年度までの「いばらき輝く教師塾Ⅱ期」は、土曜日に実施していたが、大学側の行事等の影響の少ない日曜日に実施したことがあげられる。

### 【2 施設設備の整備等について】

- 開所30年となり老朽化も避けられない中、常にきれいに整備・管理されている。
- ICTの環境整備の充実や活用推進についての進化を大いに感じた。そのため、学校現場でもさらにICTの環境整備に力を入れていく必要性を感じた。
- 障害者への配慮や危機管理体制の整備等が、適切に行われている。
- 案内板等の掲示は、年々、工夫されていてよい。
- 視野狭窄・弱視といった視覚障害者や、近視、老眼でも読みやすい「ユニバーサルデザインフォント」の採用を検討してほしい。
- 施設の改修・更新などの際には、積極的に「ユニバーサルデザインフォント」を取り入れていきたいと考える。研修講座資料については、どの課でもUDフォントを使用している。
- 受講者アンケートによると、空調の改善要望が少なくない。
- 空調は、重油を使用した冷温水発生器による全館空調となっているため、個別の研修室の調整は難しい面がある。暖房については、灯油による補助暖房を使用し、温度調整をしている。
- 各施設の今後の有効活用について検討が必要ではないか。
- 使用頻度の低い訓練室等の使用方法については、有効活用できるよう検討を進めていく。特別支援棟の3階の2つの部屋については、来年度から研修室として使用する予定である。

### 【3 外部評価委員会について】

- 回数、時期ともに適切である。
- 今年度と同様の内容でよい。
- 評価にあたっては、講座や施設の見学も欠かせないので、引き続き時間をとってほしい。
- 教育相談事業については、実施状況や相談内容、傾向は示されているが、どう評価してよいか分からない。相談した結果、どうなったのかについても何かしらの言及があると、外部の者にも評価しやすいのではないか。
- 相談は相談者のニーズに沿うものであるため、1回で終了する相談もあれば長期に渡って続いている相談もある。「解消率」などで評価したり、相談者へ評価を求めたりすることが困難なところもあるので、評価の仕方や結果・過程の捉え方等について、改めて検討していく。
- 2回の外部評価委員会の後、評価票への記入となるので、評価の方法や項目等について、どのような形がよりよいのか、引き続き検討が必要かと思う。
- 評価方法や項目等について、よりよいものとなるように検討していく。

### (3) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明をした。

## 4 閉会